



扇子を使ってうどんをすする表現方法に挑戦する児童
＝篠山市黒田で

語を披露すると、会場は一転して笑い声に包まれた。染太さんは、顔の向きで違う登場人物を演じる表現方法を紹介。また、児童の代表が手ぬぐいや扇子を物に見立てて、鼻をかんだり、うどんをすする真似をしたり、玉すだれを舞台で挑戦するひとコマもあり、笑い声が広がった。

「いじめで死ぬな」

西紀南小で 落語家が人権講演

西紀南小学校（杉本克治校長）で6日、落語家の林家染太さんを迎えた人権講演会「笑う門には福来る」が行われた。同校育成会（長澤逸夫会長）文化教養部の主催。染太さんは、自身のいじめられた体験をもとに「もし、いじめられて苦しんでも死んだらだめ。生きていたら楽しいこと

がたくさんある」と強調した。

染太さんは中学時代、いじめられている同級生を助けたことがきっかけで、反対にいじめられるようになったという。制服や教科書が破られ、靴

が捨てられた。ノイローゼになり、「死んだ方がましと思うようになっていた」と振り返った。

その経験をもとに「いじめられている人は、両親や先生に相談して。もししたら必死になって守ってくれる。もし、誰にも相談できないなら逃げて。学校に行かなくていい。学校は死に行くところじゃない」と語りかけ、保護者に向けては、「いじめは子どもだけでは解決できない。保護者、地域、先生が必死にならないと、なくならない」と呼びかけた。

染太さんが講演後に落

語を披露すると、会場は一転して笑い声に包まれた。染太さんは、顔の向きで違う登場人物を演じる表現方法を紹介。また、児童の代表が手ぬぐいや扇子を物に見立てて、鼻をかんだり、うどんをすする真似をしたり、玉すだれを舞台で挑戦するひとコマもあり、笑い声が広がった。

その経験をもとに「いじめられている人は、両親や先生に相談して。もししたら必死になって守ってくれる。もし、誰にも相談できないなら逃げて。学校に行かなくていい。学校は死に行くところじゃない」と語りかけ、保護者に向けては、「いじめは子どもだけでは解決できない。保護者、地域、先生が必死にならないと、なくならない」と呼びかけた。

染太さんが講演後に落